

令和2年10月1日

発行人 長野県民生委員児童委員
協議会連合会
会長 伊藤 篤志

編集人 広報委員会
委員長 月岡 幽美子

〒380-0928 長野市若里7丁目1番7号
(長野県社会福祉協議会内)

新型コロナウイルス対策 特集

Contents

- ◆ 特集：新型コロナウイルス対策
 - 広報委員からのコロナ対策報告 2~3
 - インタビュー「まちの縁側めぐめぐ亭」 4~5
- ◆ 民児協訪問
 - 木島平村民生児童委員協議会 6
- ◆ 災害レポート
 - 生活支援・地域ささえあいセンターのご案内 7
- ◆ つなぎびと 8

新型コロナウイルス対策



今年2月下旬から新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、民生児童委員の研修や定例会、地域の交流会が中止、学校が休みとなり、4月には全国に緊急事態宣言が発令されるなど民生児童委員活動にも大きな影響が出ています。このような状況であったため、本誌「つなぐ」の取材も困難となり、7月1日号は休刊いたしました。

コロナ禍の中、国が示した「新しい生活様式」に留意し各民児協で様々な工夫をしながら活動されていることと思いますが、今回の特集では、本会広報委員4人が身近な地域での活動の現況や感じていることなどを執筆しました。

また、長野市豊野地区で今年の台風19号による被災者のための「居場所」運営の現状とコロナ対策を取材しました。

広報委員からの コロナ対策報告

日頃の訪問活動と それによる影響

月岡委員（飯山） 日頃の民生委員活動としては、目の前で困っている人はいないか、若者や子育て世代、現役世代、高齢者を対象に自分の気づきと創造力を働かせて必要な支援策につながるように行政と連携していきたいと思っています。

林委員（岡谷） 必要以上の接触を防ぐために話は最小限にとどめ、訪問も早めに切り上げるようにしています。時には便りをポストに投函、電話での伝言といった方法も取っています。特に女性の高齢者からは「訪問時に長話をするのが楽しみだったの」という残念な声も。また、コロナ禍の期間中に1度も訪問できなかったエリアができてしまい、その間、数名のご高齢者が亡くなったり施設等へ入居したりと、状況が一変してしまつたことに後悔をする委員もいました。

赤羽委員（松本） 日頃の訪問活動は、感染者が拡大し始めた4月から自粛をしています。ただし、緊急性のある時や日常生活に心配のある人の訪問については、電話での連絡や、また、どうしても直接面会が必要な場合は、マスクの着用や適切な距離を確保するなど対応しています。様々な行事が中止になり、日常の訪問活動が充分に行えないため、一人暮らしの高齢者の心身の健康や孤立化が懸念されます。

山口委員（上田） 3月から訪問は中止とし、電話での安否確認で対応しまし

たが、電話では振り込め詐欺などを警戒してなかなか出てくれません。真田地区では有線電話でかけると出てくれます。つながらない場合は、夕方出向いて部屋の明かりで安否確認をします。6月より訪問を再開し出来るだけ短い時間の会話するように委員に申し合わせましたが、久しぶりの話し相手に訪問時間が長くなりました。福祉推進委員、福祉委員と協力し分担して見守り訪問をしてくれるので回数でカバーできました。

定例会の実施状況

月岡委員（飯山） 飯山市は市及び各地区単位の会議を月1回行っています。国の緊急非常事態宣言が出された5月は中止。6月からは再開しています。

林委員（岡谷） 基本的にはどの地区も広い会場で間隔を空けて座り、換気を行うなど工夫して、月一の定例会は毎月開催しています。一度、定例会をお休みした地区がありました。資料の配布や集金等のために地区会長が委員一人一人の家を回らねばならず、かなり大変だったと聞きました。また、定例会までなくしてしまうと何も活動していないようで負い目があるといった声も多くあつたようです。

赤羽委員（松本） コロナ禍でも、日常の活動の基本となる定例会は、欠かすことができないと考えています。そのため、広い会場に変えて、三密を避ける環境の確保と消毒を徹底しながら時

間を短縮して実施してきました。月に一度でも顔を合わせて、状況を確認し合い、課題を共有することで新任委員も安心して活動が継続できています。

山口委員（上田） 上田市では3月定例会及び懇親会、施設訪問など自粛。少人数（10人以下）での会議は細心の注意をし、地区会長判断で開催するよう決定しました。しかし4月8日上田市で感染者が発生し、行政の緊急会議で全ての会議は中止、公共施設は全て閉鎖に決定。民児協もそれに従い会議行事等は5月末まで全て中止に。6月に定例会を再開しましたが、委員30名を3グループに分けて開催しました。7月には小中学校、保育園、幼稚園、福祉施設、社協等の代表者を含め40名を超える人数のため、文化会館の広い場所で開催しました。人の表情も良く分からずマスク越しのマイク声での会議は異常に感じました。

サロンなどの行事の 現状と対策

月岡委員（飯山） 市の包括支援センターが後援する介護予防事業としての集落サロンは、市からは感染予防策をしっかりとった上で実施せよというお話でしたが、どの地区も控えている現状です。地区単位で行う未就園児と親が集う子育てサロンは6月から再開しています。

林委員（岡谷） 市全体の研修会はすべて中止に。また、乳幼児等のサロンの集会もほとんどが中止。年に2〜

3回ほどの児童・福祉・高齢者・障害者という4つにわかれた部会の勉強会も開催できず、せめて年内に一度は開催したいと実施の方向で内容を検討中です。新人委員の研修ができません、ベテラン委員数名が委員としての心構えや活動内容等を資料にまとめ、自身の地区会で新人委員のための勉強会を行いました。これを機に、市内全地区の新人委員にその資料を配布、活動に不安を抱いている委員たちが有効な情報を共有することができました。

赤羽委員（松本） 地区社協では、4月以降、理事会を始め、会食会、子どもスポーツ大会、夏祭り、文化祭などが全て中止となっています。7月の非常事態宣言が解除されてからは、少しずつ三密を避けての実施を模索し始めています。例えば、8月に予定されている平和祈念式典では、参加者の人数制限や、内容の見直しをしています。また、10月に予定されているふれあい会食会は避けて、一人暮らしのお年寄りの皆さんに地元の産物をお届けして元氣をお届けしようと計画を進めています。

山口委員（上田） 3月から現在もサロン、ふれあいの集い、施設訪問などは全面中止。その予算で粗品としてマスクを贈呈しました。楽しみにしていた人の集まりで残念がっていました。誰もがやむを得ないという意見でした。今後、一番遅れると思われるのがこの行事であり集まる行事以外での対応が必要であると思います。

近隣での参考事例

月岡委員（飯山） 木島平村の一事例を紹介いたします。北信地方では最も高齢化が進み、ひとり暮らしが増えています。訪問に訪れた際、委員に買い物や、冬期間等ゴミ出しが困るという声もあり、ニーズが多ければ対策を講じなければという認識を一致させました。行政と関わり村の担当者との会議を持ち、アンケート調査を行ったとの事でした（P6参照）。村の福祉バスに乗って買い物に行くことも難しくなっている方もいられる中、住民に寄り合い細やかな活動の必要性を感じました。

林委員（岡谷） 近隣広域はどれも似たような状況下にあります。わが市も実施していますが、広域でも、小中学校の消毒作業というものを地域のボランティアの方々を中心となって行っています。子ども達が下校した後、30分から1時間ほど、校舎内のトイレや階段の手すり等を消毒して回るとい活動です。いつまで続くかわからない状況に加え、まだまだ地域ごとのボランティアが不足しているのが現状です。

赤羽委員（松本） ある町会では、75歳以上の希望者が2カ月に1回程度集まって交流を楽しむサロンを開設しています。女性の会ではお茶を飲みながらのおしゃべり、男性は、つまみや自分の好きな飲み物（お酒）を持ち寄って交流を深めてきました。しかし、コロナの影響で中止になり、全く顔を合わせない日常生活に孤立感の深まりを心配した委員が思い切って声をかけま

した。三密対策を万全にしながらの久しぶりの再会に笑顔が溢れ、積もる話に花が咲きました。

山口委員（上田） 5月末までは外で人に出会うことはなく130戸の住宅だけがあつ無人地区かと思われる程でした。毎日来るのは郵便配達だけで、そのほとんどが団体の会議、総会中止に伴う書類決の通知でした。見守り対象以外家庭もどうなっているのか、委員の任務として地域住民が全て対象でありどうしたものか思案しました。そこで普段連絡しない、逢うこともなかった家庭まで、有線電話で連絡をとることにしました。「民生委員です、お変わりありませんか、困ったことはないですか」と言つとみなさん快く応対してくれました。また感謝もされました。通常は「相談援助」の任務ですが、話しかけることで人とのつながりができると痛感しました。現在それが失われつつあります。

その他（困った人）

月岡委員（飯山） 担当地区は千曲川とその支流にはさまれた地域で毎年の豪雨による水害の不安に悩まされています。今年から我々も地区の災害対策本部のメンバーに加わりましたが、発災時はどのように行動すればよいの不安はありますが、区長をはじめ委員の皆様とコミュニケーションを密にして速目の行動を第一にという心がまえで、役割を全うできることを願っています。

林委員（岡谷） 全ての研修会や行事等が中止に追い込まれる中で、委員としての活動不安や自分自身のモチベーション低下が懸念されるとの意見が多く聞かれました。特に学校行事訪問や地域のイベントの中止で、地域の子どもたちとの接点が全くなってしまう、見守りをしたくてもできない、情報が全く入ってこない等の悩みも多聞かれました。特に高齢者や子どもとの接触は慎重に行う必要があり、何をやるにも判断が難しいところがあるように感じます。

赤羽委員（松本） 7月に大雨で特別警報が出されたことがありましたが、その際、三密をどう避けるかが大きな課題となっています。赤ちゃん訪問が、長期にわたって休止状態に。実際に家庭を訪問して赤ちゃんの様子を見たり、お母さんに情報を伝えたりする活動のため、コロナがどの程度収束すれば活動ができるのか判断がむずかしいです。

山口委員（上田） 新任委員が活動を学ぶ期間にコロナ問題が発生してしまいい戸惑っている状況です。現段階では専門部会研修も行事も今年度中止と決定しており、一期目の研修は重要となります。身近な支えとしては再任委員が活動とは別に支えることが重要であると思います。真田地区では再任委員が2人しかおりませんので、体験をもとに資料を作成して、定例会で学ぶように進めています。

居場所のコロナ対策と災害支援

長野市豊野地区

インタビュー

「まちの縁側 ぬくぬく亭」

昨年10月の台風19号による水害で被災した豊野地区は長野市の北部千曲川が決壊した長沼地区の西隣に位置します。支流も氾濫し、地域内の福祉施設や住宅地などが水につき、その被害は大きく、未だ自宅に戻れない家族もいます。

地区内にある200人以上の高齢者を受け入れていた賛育会のスタッフが、地域のさまざまな団体や自治組織とつながり、協働で「まちの縁側ぬくぬく亭」を運営しています。その紹介と、コロナ対策を講じながら、どのように被災者や住民を見守っているのかを取材しました。

立ち上げの経緯や活動について

―被災当時の様子を教えてください。

春原 私の勤める豊野清風園はデイサービスも合わせると利用者が約280人います。当時200人以上利用者がおり、建物の2階へ避難しました。私は10月13日の昼、ボートでかけつけました。14日には水が引いたので、14日朝よりDMATや自衛隊の皆さんと協力して利用者のみなさんに避難していただきました。その後、ボランティアセンターが立ち上がり協力しながら住民の家の片づけをしました。

―ぬくぬく亭の立ち上げの経緯を教えてください。

春原 被災地を支援している団体や



▲ぬくぬく亭の責任者

春原 圭太 さん
(社会福祉法人賛育会 豊野清風園 介護員)

自治組織など13団体が協力し、最初は災害現場で炊き出しを行っていました。しかし、豊野地区で被災した人たちが住民の集まれる場所がなかったのです。そこで、誰でも気軽にお茶を飲んで話せる縁側のような場所として、昨年12月12日にオープンしました。

―賛育会の職員が常駐しているのですか。

春原 はい。「地域の復興なくしては、自分たちの事業の復興はない」との想いで、ピーク時には15人、現在はスタッフ5人が常駐しています。8月以降は特に豊野区住民自治協議会と連携を密にしています。また、地域のボランティアグループ連絡協議会から2人ずつ当番で常駐していただいています。

―居場所以外の主な活動はなんですか。

春原 長野市社会福祉協議会と連携

して訪問活動をしています。豊野地区のマップを活用して、被害のあったお宅約900軒を訪問しました。継続的に毎週訪問するご家庭もあります。また、被災者の方たちのニーズをお聞きし、片付けなどのボランティア活動もしています。必要があれば各関係機関と連携して行っています。

新型コロナウイルス対策について

―新型コロナウイルスの対策はどうしていますか。

春原 まず、3月に対策マニュアルを作成しました。コロナ対策についての正しい知識を住民に周知することから始めました。福祉施設のスタッフ研修で使う「手洗いチェッカー」を活用して特に爪の間など手洗いのコツを実演したりしました。まず入口で体温を測り、必ず利用者の方に記名、手の消毒とマスクをしていただいています。朝必ず机、イスやドアなど室内を除菌もしています。エアコンを入れながら常に換気もしています。

―訪問活動の際にコロナ対策で気を付けているのは。

春原 除菌ローションを腰に下げて回っています。一軒一軒出入りの度に使用します。玄関の中には入らずに、必ず外で会話をします。



▲お茶は紙コップを使用



▲手洗いチェッカー



▲室内の様子



▲学生ボランティアが制作した看板

—現在訪問活動に力を入れていることですが、その目的や方法を教えてください。

春原 とにかく災害関連死を防ぐことが最大の目的です。これは深刻な問題で、精神的に追い詰められての自殺を防ぐことを視野に入れています。

訪問支援の重要性、居場所運営の課題と利点

—なぜ炊き出しや配食が必要だったのですか。

春原 特に高齢者宅を訪問した際に、買い物の手段がなく、キャベツの干切りだけを夕食のおかずにしていた場面に出会い衝撃を受けました。謙虚で人に助けを求めるところもしいのです。おべんとうを届けることで、話すきっかけになりました。6月からは気温が上がりが衛生に配慮して配食はやめました。

—このコロナにより、支援への影響はありますか。

春原 現在一日平均5人程度、ぬくぬく亭を利用していただいています。コロナ禍で少ない状況です。以前は毎週炊き出し200食をしていたのですが、残念ながら中止し、3月中旬から5月下旬にかけて、配食に切り替えた時期もあります。

—必要があれば「長野市生活支援・地域ささえあいセンター」（P7参照）へつなぎます。時間の制限はつけず、とにかく一人一人しっかり話を聞くことを心がけています。2人一組で訪問するようにしています。訪問記録を毎回しっかりと残し、記録の保管は鍵をかけています。

—これからの課題はなんですか。

春原 私の勤める賛育会も建物やサービスが復旧してきました。ニーズがある間は、スタッフがぬくぬく亭に常駐しますが、できれば少しずつ、地域住民主体による居場所の運営へと移行できればと考えています。また民生児童委員のみなさんにもぜひご協力いただければと思います。

—こうした居場所を運営してみても自身の感想を教えてください。

春原 人を支えるという意味では、介護の仕事と目的は同じです。支援を通じて、多くの出会いがあり「絆」が生まれました。また、県内外の災害支援のNPO法人等から情報共有の仕方などノウハウを学ぶこともできました。感謝の気持ちを大切にしています。

まちの縁側ぬくぬく亭

長野市豊野町豊野633-1（豊野支所駐車場横）
TEL 090-4912-7936
開所時間 毎日 10:00～17:00



ボランティアのみなさんが当番で常駐しお茶を出したり話し相手になったりしています。この日は寸劇を通して認知症に関する理解を推進するグループ「忘れルンジャーとよ」の元民生児童委員の武田賀寿子さんと山岸たけ子さんが手仕事も用意してぬくぬく亭で長い時間ゆったりと過ごせるように工夫していました。



▲豊野地区のマップを掲示して状況を常に把握しニーズに対応



▲マスクや歯ブラシセットなど物資支援コーナーも



▲エアコンの台数を増やし、常に換気を行う

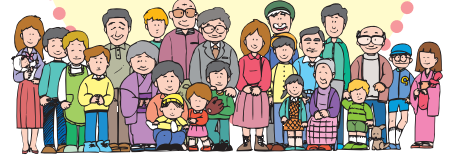
訪問



木島平村

記者が地区民児協におじゃまし、会長や委員とコミュニケーションを図って、第三者の目でレポートしていく「訪問」コーナーです。

民児協
だより



木島平村民生児童委員協議会



▲定例会の後の研修会の様子「ちょっと気になるお家」関係機関へのつなぎ方

地域の課題を集め、小委員会で解決策を検討し、村や機関へ意見書を。

長野県の最北に位置する木島平村は、豪雪地として知られる人口4300人の小さな村です。日本一美しいブナの森を有するカヤの平高原や、高社山の麓には木島平スキー場があります。新幹線駅でもある飯山駅や、豊田飯山ICも近くにあり、シーズンを通して自然を満喫できる地です。

民生児童委員は21人で、2人が主任児童委員。少子化で保育園が1つとなり、また小学校・中学校

も各1カ所です。

会長の畔上秀一さんは「玄関先までの数メートルの除雪が必要。除雪対策は、行政や社協と連携し、我々はつなぎ役としての意志統一を図っている」と話します。また、「買物や病院への移動難民の問題もある」とも。現行の交通では、行き届かない困りごとに、どう対応したらいいのかなどなど、昨年まで民生児童委員の定例会でもよく話題に上がっていたといいます。「困りごとについて意見は出て、委員の人数が多くて、その実態調査や解決策まではなかなか話し合えないことが課題だった」と会長。

そこで、民生児童委員全員へ今年3月、村民の困りごとに関するアンケートをとりました。その結果を受けて課題検討小委員会「寄りそって行こう会」を立ち上げたのです。小委員会は6人で構成し、会長は小松敬子委員がつとめ、社協の生活支援コーディネーターや教育委員会などもオブザーバーとして参加します。8月3日には第1回検討委員会を開催。「村民に寄り添って、なんとか行政や各機関につなぐことができ



▲木島平村民生児童委員の皆さん（後列中央が会長 畔上秀一さん）

ば。自分はこれをやりたかったので今期も民生児童委員を継続した」と小松委員。地域のつなぎ役として、村・社協・地区などへ政策などを提言できればと動き始めました。今後は3カ月に1回ほど開催する予定で、できるだけ長い継続を目標んでいます。

その他、社協と連携して福祉車両の運転・介助ボランティアへの協力、日頃の見守り活動はもちろん、コロナ対策に留意しつつ各地区で「いきいき広場」の運営も毎月行っています。

生活支援・地域ささえあいセンターのご案内

昨年10月の台風19号により被災された方々が生活の不安や困りごとを相談できる「生活支援・地域ささえあいセンター」が県内、長野市・中野市・飯山市・佐久穂町に設置されています。その一つ、長野市のセンターを取材紹介いたします。

市役所の東側、長野市ふれあい福祉センターの2Fに「長野市生活支援・地域ささえあいセンター」があります。昨年10月13日に襲った台風19号により、長野市は甚大な被害を受けました。被災者の見守りや生活再建をすることが目的で長野市社会福祉協議会が長野市の委託を受けて設置。見守りや困りごとの相談、関係機関へつなぐなどの支援を行っています。

当初生活支援相談員は16人。民生児童委員の改選期直後だったこともあり、民生児童委員経験者が主力となりました。昨年12月23日より市内4カ所の建設型仮設住宅で生活する被災者の訪問活動からスタートしました。年が経てからは、借り上げたアパートで生活する人や、公営住宅も訪れ、相談を受けてきました。

現在は、職員や相談員を含め24人、内11人が民生児童委員経験者です。

仮設住宅や被災地に限らず、市内各地区で「ふれあいお茶っこえんがわ」を開催しています。各地区に避難している被災者が、お茶を飲みながら気軽に、生活のことや、再建のこと、悩みについて話せる場を提供しています。

長野市生活支援・地域ささえあいセンター

被災者の見守り・相談支援をおこなう
長野県生活支援・地域ささえあいセンター
抱える不安や悩みは人それぞれ…
被災にともなう生活の不安や困りごとなど、なんでもお気軽にご相談ください。

長野市生活支援・地域ささえあいセンター	開所日：2019年12月19日	TEL 026-219-5251
中野市生活支援・地域ささえあいセンター	開所日：2020年2月1日	TEL 0269-38-0221
飯山市生活支援・地域ささえあいセンター	開所日：2020年1月6日	TEL 0269-62-2840
佐久穂町生活支援・地域ささえあいセンター	開所日：2020年1月17日	TEL 0267-86-4273



▲「ふれあいお茶っこえんがわ」のチラシやその様子の写真



▲長野市生活支援・地域ささえあいセンターの様子



表紙写真紹介 日本のチロル 「遠山郷 下栗の里」

撮影

安曇野市豊科地区元民生児童委員
岡村 豊作さん
(おかむら とよさく)

飯田市上村の標高800~1,000mの東斜面に位置する集落で、日本のチロルと呼ばれる「遠山郷 下栗の里」の紅葉風景です。平成21年には「にほんの里100選」にも選ばれました。

profile 平成19年に4期務めた民生児童委員を退いて以降、今も地域の福祉活動に関わりながら趣味の写真に没頭し、前向きに過ごしています。





一人一人は微力だけれど、
決して無力じゃない

昨年10月の台風19号による千曲川の氾濫で、長野市では、長沼・豊野・松代・篠ノ井・若穂・古里地区などで甚大な被害がありました。地区外に避難し、アパートや公営住宅、仮設住宅、親族宅等で生活している被災者が多いのが現状です。

横田暁子さんは昨年秋まで長沼地区の隣、朝陽地区で民生児童委員を4期、会長を2期つとめました。改選期で引退を考えた矢先、台風が襲ったのです。実は、横田さんは、災害支援グループ「チームながでん」に属し、過去に東日本大震災以来、東北・岡山・広島・糸魚川など20回以上に渡って被災地支援に入ってきました。今回の災害でも被災地で泥だしや片付けなどに奔走していました。

避難所が閉鎖され仮設住宅などに被災者が入居して生活を始めた12月に、長野市社会福祉協議会より被災者を支えるための「長野市生活支援・地域さ

えあいセンター」が立ち上がるので、生活支援相談員を引き受けてほしいとの依頼がありました。

「少しでもお役に立てれば」と引き受けた横田さん。12月23日に初めて仮設住宅を回って被災者の声を聞きました。また正月には4カ所の建設型仮設住宅で炊き出しを実施。その後、みなし仮設住宅や、公営住宅も回ってきました。また横田さんたちは、市内各地区で「ふれあいお茶っこえんがわ」を開催し、気軽に被災者が集まって交流したり、困ったことを相談できる場も作っています。

相談員は現在24人。担当地区を決めて回っていますが、今までに横田さんは約800軒以上を訪問してきました。

具体的には、介護認定の申請の情報提供、福祉自動車案内、災害公営住宅の申し込み、生活支援に関する説明などさまざま。災害から1年近くが経過した今、「独居の高齢者がコミュニケーションを失い孤独に。これからの暮らしの見通しが立たず不安を感じている。心のケアが重要」と実感しています。

市内各地区の民生児童委員協議会の定例会にも出席し、必要に応じて会長や地区の担当委員に情報をつなぎます。「一人一人は微力だけれど、決して無力じゃない」と横田さんたちは、ひたむきに活動を続けています。「市外に避難している方もいるので、気がついたらぜひつないでほしい」と全員の民生児童委員に呼びかけています。(センター連絡先はP7参照)



広報委員

リレー日記

通常の年ですと、新任の委員も10カ月が過ぎ、見守りや相談相手として活躍している時期です。しかし今年度は予期せぬ新型コロナウイルスの感染問題で、会議や行事、懇親会などと訪問活動の自粛などへの対応で、苦慮する事態となりました。

本誌の7月号も休刊せざるを得ない事態となりました。編集会議も延期となり、7月17日にようやく再開し、141号の発行の運びとなりました。

今回の特集として新型コロナウイルスの影響も議題に上がりました。が、結果が見えない途中過程でもあります。また個人情報の提供についても検討しましたが10月予定の研修で個人情報保護がテーマとなっており、見送りました。

コロナ禍の事態で各方面の取材も難しく、今回は編集委員が自分の担当地区で、どのような対応をしながら活動しているかを取り上げることとしました。

少数委員の事例ですが参考にしたいだければ幸いです。

(委員 山口三千夫)